フラメンコって何？

文と写真／志風恭子
Texto y foto kyoko Shikaze

11 曲種あれこれ

曲種

コンパスとともに、フラメンコ初心者を悩ませるのが曲種。え、フラメンコってひとつじゃなかったの？　こんなに種類があるなんて聞いてないよ、と思った人もいるのでは？　それも同じファンダンゴでもウエルバだとかルセーナだとかグロリアだとか、あーもう何が何だかわけわからない、ってパニックになってしまいそう。いやいや、そんなに難しく考えることはないんです。

曲種とは

フラメンコにはいろんな曲種があります。曲種＝形式と言っていいでしょう。“曲”ではなく“曲種”とよぶのは、同じ決まりを守っていても、歌詞やメロディ、構成などが全く異なる楽曲をひとくくりにするものだからです。

曲種ごとに、音楽のメロディ、和音、リズム、詞の形など、それぞれの決まりがあります。そしてその同じ曲種の中でもまた調性やメロディなどでいろいろな種類に分かれているのです。

セビジャーナスを例にとってみましょう。よく歌われる『ミラ・ラ・カラ・ア・カラ』と『エル・アディオス』。どちらも聴いたことがあるのではないかと思います。歌詞も違えばメロディも違うこの２曲、曲としてのタイトルは先に述べた通りですが、曲種はどちらもセビジャーナスです。セビジャーナスの決まり、コンパスと寸法を守っているからです。ルンバやブレリアならもっと自由で、コンパスさえあっていれば寸法も調性も自由です。反対に、マラゲーニャなどでは決まったメロディがありますが、テンポや音の伸ばし方などにはかなり自由がききます。なので、同じ曲種で、同じ歌詞、同じメロディを歌っていても違う曲のように聞こえることもあるのです。

ちなみに曲種はスペイン語で、エスティロと言いますが、最近はパロという言葉を使うことが多いようです。

なお、公演プログラムなどで、アレグリアス、ソレアレスといった曲種の名前がそのまま曲名として用いられることもありますが、そのすべてが全く同じ曲ではないことは言うまでもありません。

その数

フラメンコのレパートリーとして取り上げられる曲種はおよそ60種です。その曲種の中には地名（ファンダンゴ・デ・**ウエルバ**、タンゴ・デ・**マラガ**など）や人名（ファンダンゴ・デ・**グロリア**、マラゲーニャ・デル・**メジーソ**など）のついた様々なスタイルが存在します。そして、ファンダンゴ・デ・ウエルバも一つではなく、アロスノやバルベルデ等、ウエルバ県の村々の名前がついたバリエーションがたくさんあります。また、ファンダンゴ・ナトゥラレスもしくはペルソナレスとよばれるものにも、たくさん、一説によれば200もの種類があり、それらも数に入れれば、ファンダンゴだけでもかなりの数ですね。マラゲーニャでも、（アントニオ・）チャコンやらラ・トリニやら創唱者の名がついたスタイルがたくさんあるし、ソレアやシギリージャもこれまた、歌

フラメンコ最初のアンソロジーを編んだことでも知られるギタリスト、ペリーコ・デル・ルナール。当時忘れられかけていた曲種も取り上げた“フラメンコ”の教科書は彼なしではありえませんでした。

アントロヒア、通称ペリーコのアンソロジーと10枚組のマグナ・アントロヒア。アンソロジーは曲種の理解に役立ちます。残念ながら今は絶版のようですが、Spotifyなどで聴くことができるものもあるようです。中古で見つけたら即買いをおすすめします。

い手の名前や地名がついたスタイルがたくさん。そうやって考えていくと本当、数え切れないほどの種類があるということになります。でもありとあらゆるスタイルを熟知している人はプロでも実はそれほど多くないかもしれません。

そう全部を全部知っていなくても大丈夫です。少しずつで大丈夫です。基本の曲種から始めましょう。

基本の曲種

フラメンコの曲種をコンパスで、ものすごく大雑把に、ですが、分類すると、３拍子の**ファンダンゴ系**＋セビジャーナス、**ソレア系**、**シギリージャス系**、２拍子の**タンゴス系**の４つになります。その４つの系統の中に含まれる曲も、また起源や調性などによって幾つかのグループに分けられることがあります。ファンダンゴなら地方由来のもの、人物由来のもの、元は地方由来ながら独自の発展を遂げたマラゲーニャスとそこから派生したグラナイーナス、東部のレバンテ系といった具合です。ソレア系なら同じリズムでもアンダルシア音階（ミの旋法）のソレアと長調のアレグリアス系の判別はやさしいのではないでしょうか。そのほか、アやイで音階を歌うカーニャやポロ、フィエスタでおなじみブレリアもソレアの仲間です。シギリージャス系ならマルティネーテなど無伴奏のトナのグループや、長調のカバーレスがあり、また中南米起源のグアヒーラやペテネーラもリズム的には同じグループです。その中南米起源の曲も多く含む、２拍子のタンゴス系では同時に2拍子と３拍子が同時に演奏されるポリリズム系のタンギージョなどもありますね。

まずは、ファンダンゴス、ソレア、シギリージャ、タンゴという、この４つのリズムごとのグループを聞き分けることから始めましょう。それができれば、あとは都々逸みたいなのがファンダンゴ・ペルソナルね、しっとりしたのがマラゲーニャ系、タラントみたいなのがレバンテ系、とか徐々にわかってくるのではないかと思います。アレグリアス系の曲はメロディが決まっているものや定番の歌詞がかなりの確率で歌われるものもありますから、比較的覚えやすいのではないでしょうか。完璧でなくても系統がわかるようになると、フラメンコはより楽しくなると思います。

グアヒーラを踊るミラグロス・メンヒバル。衣装や小物も曲種ごとのお約束があります。アバニコといえば、グアヒーラやカラコーレスですね。

見分け方

スペインのフラメンコ入門書にはこんな見分け方もありました。まず、シリアスな感じの曲か、フィエスタぽい楽しい感じか、次にリズムが二拍子か三拍子かその組み合わせか、最後に調性で、判断するという方法です。シリアスな二拍子でアンダルシア音階ならティエントス、シリアスで組み合わせのリズム、アマルガマで長調ならカバーレス、といった具合です。

いやもっとたくさんの曲を、個人のスタイルまで聞き分けられるようになりたい、というならこれはもうひたすら勉強あるのみです。アンソロジーなどを聴いて、コンパスだけでなくメロディを暗記していきましょう。なお、CDやリサイタルなどでタランタといっていてもタランタとカルタヘネーラを混ぜて歌っている、ということなどもよくありますのでご注意のほどを。なお、個人のスタイルまで覚えるのには、実際に歌ってみるのが一番だと思います。

なお各曲種にはそれぞれ特有の性格があります。それを歌でも踊りでも、演じ分けるのが本物のアルティスタです。

1994年のしかぜ。ビセンテ・アミーゴの通訳も３回目。ビセンテ、JMイエロ、ハビエル・ラトーレと。

志風恭子／1987年よりスペイン在住。セビージャ大学フラメンコ学博士課程前期終了。パセオ通信員、通訳コーディネーターとして活躍。パコ・デ・ルシアをはじめ、多くのフラメンコ公演に携わる。